

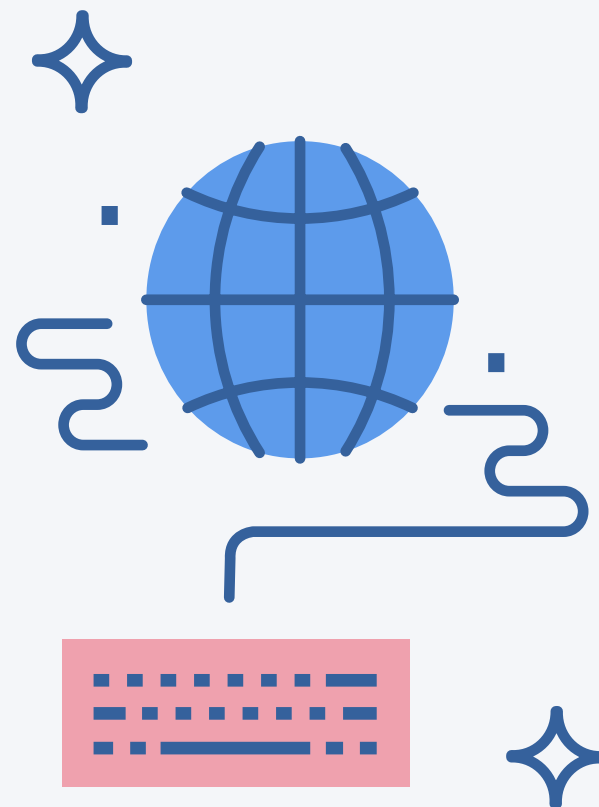
小中高等学校における AppleのEduTech活用法





教育現場で拡大する テクノロジーの役割

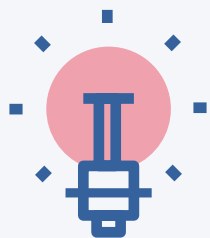
EduTech (教育テクノロジー) は、効果的に使用することで、学習や指導の体験をより豊かなものにしてくれます。世界的なパンデミックがきっかけとなり、対面授業だけでなく、リモート学習やハイブリッド学習などにも対応できる教育エコシステムへのアップグレードの必要性が高まっています。



このeBookのトピック

- EduTechの基礎知識
- EdTechを最大限に活用するためのステップ
- 教師、生徒、保護者が利用できるリソース





ビジョンの 創造

テクノロジーに関して正しい決断を行うために必要不可欠な最初のステップは、教育機関の教職員、生徒、保護者のニーズを理解することです。COVID-19パンデミックは、すべてのユーザが場所を問わず力を発揮できる環境を実現するテクノロジーを採用するための準備が各学校でできているか、そしてできていない場合は将来的にできるのかどうかを見定める物差しとなりました。今こそ、何がうまく行き、何がうまく行かなかったのか、どこに新たなチャンスがあるのか、そして長期的に学校を成功に導くためにどのようなプロセスやポリシーが必要なのかを評価する絶好の機会と言えます。

- 教職員が既存のツールやテクノロジーをどの程度使いこなしているか
- 現在のコミュニケーションやレッスン管理に問題はないか
- 学習を最適化するツールやリソースへのアクセスが生徒に与えられているか

テクノロジーに関して正しい決断を行うために必要不可欠な最初のステップは、教育機関の教職員、生徒、保護者のニーズを理解することです。

お金を使うということに関して、教育業界ほど節約の方法を熟知している業界はありません。投資を必要とするエリアは無限にありますが、資金には限りがあるため、最大の費用対効果を得ることが何よりも大切になります。そのため、テクノロジーへの投資は現在だけでなく、将来のためのものでなければなりません。ビジョンが欠落している多くの教育機関は、利便性を優先してその場しのぎのハードウェアやソリューションに頼りがちですが、この方法では最終的に時間とコストが無駄になってしまいます。

その代わりに、まずは教師や生徒、保護者、IT管理者の具体的なニーズについて情報を集めることから始めてみることをお勧めします。

- 生徒と教師間で効果的なコラボレーションが行われているか
- 保護者がもっと積極的に参加・関与できる環境の必要性はあるか

これらはすべて、学校へのテクノロジーの導入を成功させる上で問われるべき重要な質問です。



学校が実際に抱えている課題

それぞれの学校には異なるニーズがありますが、すべての学校に共通する課題もあります。まず、どのような形でデバイスをユーザの手に届け、それをスムーズに運用するかという点があります。これは多くの教育機関が頭を悩ませている課題です。

例えば、イギリスのストーク・オン・トレントという町にあるBelgrave St.Bartholomew's Academyでは、すでにiPadの採用を行っていましたが、デバイスを1台1台手でアップデートし、生徒のさまざまなニーズに応じて異なるアプリやコンテンツをインストールするのに苦労していました。同校はJamfの力を借りて、デバイス数を増やし、その管理をスムーズに行うことができるようになりました。

ニューヨーク市の学区のひとつであるSewanhaka Central High School Districtでは、Google、Microsoft、およびAppleのテクノロジーを分析し、約9,000台のiPadデバイスの導入を行った結果、生徒間の社会経済的格差だけでなく、学習能力の格差を埋めることに成功しました。

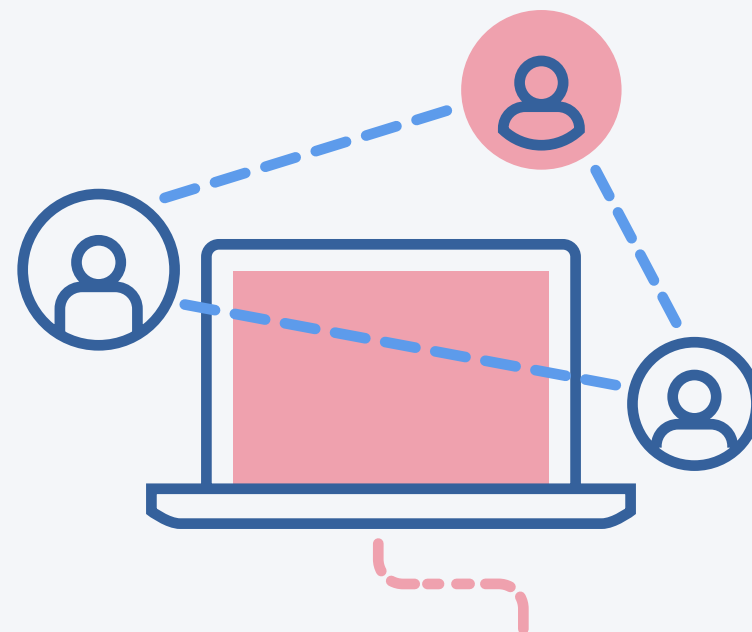
Scottish Borders Council (スコットランド南部の地方自治体) は、教育カリキュラムを改新し、すべての子どもの人生を豊かにするという明確なビジョンを掲げています。「モビリティ」、「パーソナライズ」、「コラボレーション」、「エクセレンス」の4つの柱を実現させるソリューションを探していた同校は、多くのソリューションの中からJamfを選びました。

オランダのGriffland Collegeも、EduTechとユーザエクスペリエンスの強化を望んでいました。1,400人の生徒全員にiPadを支給するプログラムを導入した同校は、新しく追加されたデバイスを最大限に活用するための堅牢なソリューションとしてJamfを選び、この課題に取り組むことに成功しました。

ここからは、教育機関のビジョンをサポートし、JamfとAppleを組み合わせ、教師、生徒、保護者、管理者それぞれにメリットを提供する方法について見ていきましょう。



可能性の追求



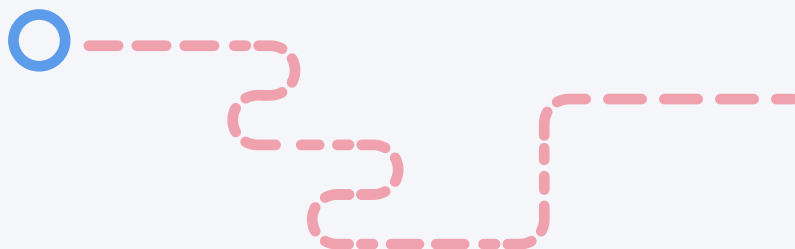
教師のサポート

Jamfは、コミュニケーション、指導、評価の観点から教育者を支援します。

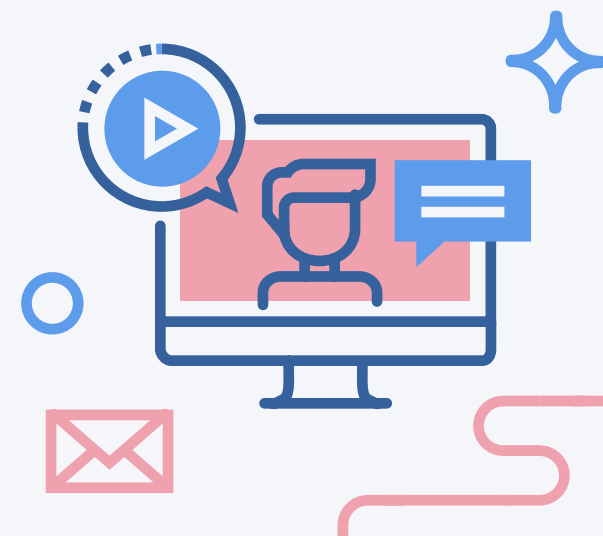
[Jamf Teacher](#)は、レッスンを自由自在に管理し、生徒がどこにいてもコミュニケーションが取れるようにするためのiOS、iPadOS、macOS向けのアプリです。

Jamf Teacherでできること

- レッスンの作成と管理
- レッスンの作成と開始
- レッスンの共有
- リモート授業に生徒を招待
- 生徒へのメッセージをグループまたは個人宛てに送信
- 生徒のために特定のアプリをリクエスト
- 生徒のデバイスを管理



Jamf Teacherアプリはテクノロジーを教育と融合させるための数々の機能を備えており、生徒に最高の教育体験を提供するという教育者の本来の目的に専念できる環境を作ります。



リモートクラス: Zoom、Microsoft Teams、Google Meetを通じて生徒と簡単かつセキュアにつながり、生徒が助けを必要としている場合もすぐに対応することができます。また、Jamf Studentアプリ経由で生徒のiPadにビデオ通話用のリンクを簡単に導入でき、クリックするだけで通話を始めることができます。

拳手: 生徒が助けを必要とする時にこの機能を利用することで、すぐに教師にメッセージを送ることができます。助けを必要としている生徒を簡単に特定でき、メッセージやメールで返信したり、リモートクラスをセットアップして一対一で生徒をサポートしたりすることもできます。

デバイスを問わず管理: iPadからでもMacからでも、いつでもアドホックでレッスンを作成することができるため、予定外の集まりなどを手配する必要がある場合に便利です。アドホックセッションはAppleのクラスルームAppと同期されるため、管理対象のレッスンと同じオプションが利用できます。

レッスンの手配: 事前にレッスンを用意し、対象のクラスと共有することができます。生徒がアクセスできるアプリやリソース、ウェブサイトを指定することができ、反対に特定のアプリやウェブサイトへのアクセスを制限することも可能です。レッスンの最後には、クラスルームAppのクラス概要に各生徒が取り組んだ内容が表示されます。

Jamf Assessment: 試験監督向けのこのアプリでは、生徒の画面をライブ録画で確認したり、カメラ越しに生徒の様子を確認することができるため、重要な試験のセキュリティ要件を満たしながらリモートで簡単に試験監督を行うことができます。

生徒のサポート

豊かな学習体験、コラボレーション、そしてコミュニケーションを支援するツールで、生徒の可能性を最大限に引き出します。

効率的なコミュニケーション:教師がアプリで双方向コミュニケーションを有効にしている場合、生徒は教師にメッセージを送ったり、挙手機能を使うなどして、疑問をすぐに解消することができます。

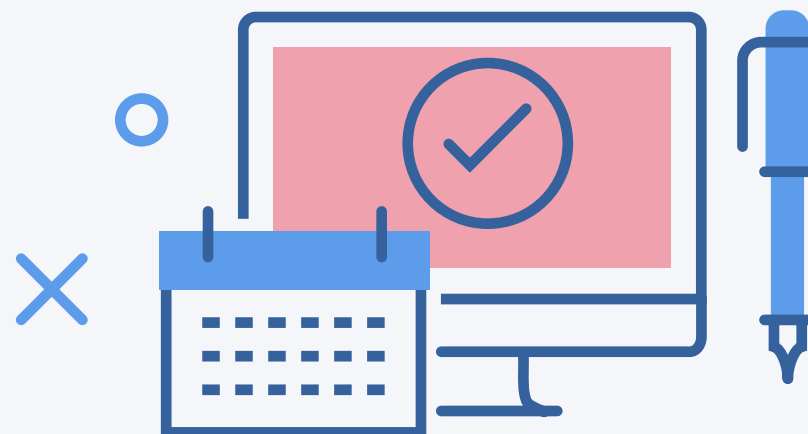
リソースへのアクセス:必要な教材にすぐにアクセスできます。Jamf Studentアプリを使えば、生徒は自分のiPadデバイスを管理したり、あらかじめ承認されたアプリをインストールしたり、個人のiCloudドライブに保存されたドキュメントを使用したりすることができます。



シンプルなアプリへのアクセス: [ExplainEverything](#)や[eSpark](#)、その他のパートナーアプリを使用することにより、トップクラスの学習またはコラボレーションツールにアクセスすることが可能になります。どの科目でも使用できる基本のアプリをいくつか用意しておけば、バーチャルホワイトボード上で効果的に共同作業を行ったり、教育向けゲームや動画、オンラインアクティビティなどを利用して生徒の学習意欲を維持することができます。Jamfと統合したアプリの一覧は[Marketplace](#)から確認できます。

保護者のサポート

保護者がもっと密接に子どもの教育に関わるチャンスや、学校支給のデバイスを管理する能力を提供します。



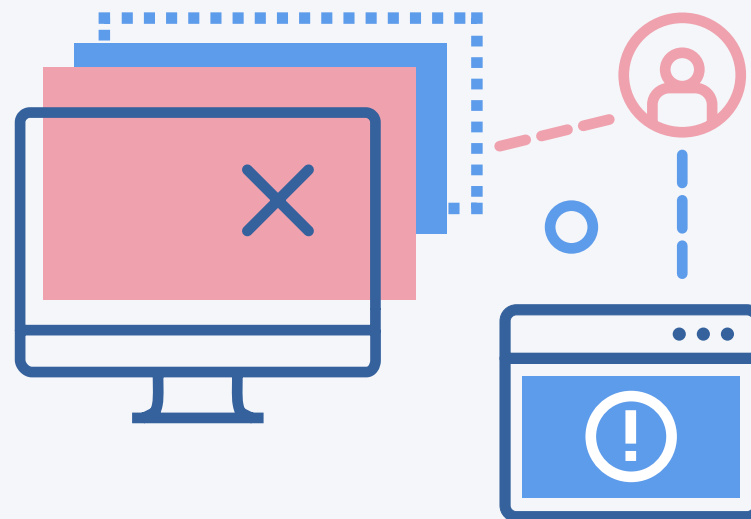
アプリのアクセス許可と制限：学校支給デバイスで利用できるアプリを保護者が選択し、使用を監視することができます。子どもが学習に集中できるように、デバイス上のゲームアプリやSNSの使用を制限するのも簡単です。また、WhatsAppやMessengerのような人気アプリを使ったコミュニケーションに目を光らせておくこともできます。

アプリのロック：アプリへのアクセスを制限する時間帯を設定できます。この場合、子どもがアプリを使用できるのは指定された時間のみになります。こうすることで、学習に必要なアプリに気を取られることなく宿題などを行うことができます。

ロケーション設定：子どものデバイスのおおよその位置を確認したり、特定のロケーション（例：自宅、友達の家、学校など）に応じたデバイスルールを設定したりすることが可能です。また、子供が無事に学校に到達したタイミングで通知を受信することもできます。

IT管理者のサポート

IT部門にシームレスでシンプルなデバイス管理ツールを提供します。



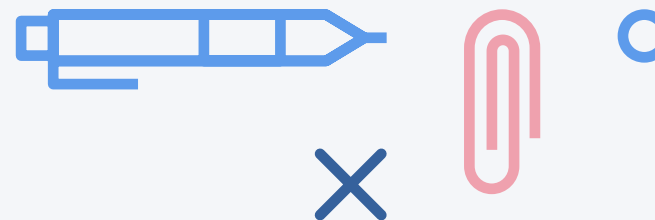
アクセス制限の管理:生徒のデバイスに制限を設ける期間や、特定の時間枠を指定することができます。また、一括処理やリモートコマンドを使って、アプリによって設定された制限を解除することも可能です。

危険信号の監視:管理対象デバイスやユーザ、アプリをトラッキングし、問題が発生しそうな場合に早めに対策を取ることが可能です。

複数のロケーションに対応:異なるロケーションとそのデバイス、ユーザ、およびグループを個別に管理したり、プロファイルやアプリなどを一元的に配布することができます。

問い合わせの削減:Self Serviceを利用することで、パスワードのリセットやツールへのアクセスといったよくあるリクエストを教師や生徒の手に委ねることができるため、ヘルプデスクやサポートチームへの問い合わせ件数を減らすことができます。

素晴らしい体験の提供:Jamfですべてがうまくいっていれば、生徒や教師、保護者がIT管理者の舞台裏の努力に気づくことはありません。Jamfは、Appleならではのシームレスかつ素晴らしいユーザエクスペリエンスを提供できているという安心感を、ITチームや管理者に与えてくれます。





教育テクノロジーの 未来



今後が楽しいパートナーシップ

教育機関ですでにMicrosoftやGoogleのデバイスやツールを使っている場合、Appleを既存のエコシステムに統合する方法がわからないと感じる管理者もいるかもしれません。最近、私たちはMicrosoftおよびGoogleの条件付きアクセスとの統合を発表しましたが、これはほんの始まりに過ぎません。こういったビッグネームが提供するパワーとJamfの機能を融合させることで、教育機関のフリートを適切に管理し、セキュアに運用することが可能になります。

eSIMの可能性

かつてモバイルデバイスには、小型のSIM (加入者識別モジュール) カードを挿入できるスロットがありました。さらにほとんどの場合、デバイスを通信業者と料金プランに紐づけるために、SIMカードがプリインストールされていました。しかし現在では、この情報をデジタル保存できる「eSIM」に切り替わっており、デバイスの構成もリモートで管理できるようになっています。

これにより、教育業界は数多くの可能性を手に入れることになります。例えば、これが学校のWi-Fiネットワークにどのような影響を与えるかについて考えてみましょう。前提として、インターネット接続がすでにデバイスに含まれているため、学校のネットワークに完全に依存する必要はありません。このことは、教育機関のネットワークインフラ全体に大きな変化をもたらし、無限のモビリティとアクセシビリティをユーザに提供できることが予想されます。

また、学校以外の場所にいる生徒に安定したインターネット接続と学習教材へのアクセスを提供することに苦労している学校の場合、eSIMを搭載したデバイスがあれば、この問題が永久に解決する可能性があります。

eSIMの活用を始める準備はできていますか？
詳しくはこちらの[テクニカルペーパー](#) (英語のみ) を
ご覧ください。

EduTechを
次なるレベルへ



Jamfが提供するソリューションについて詳しく知りたい方、またはこれらのツールを実際に教育機関に導入する方法に興味をお持ちの方は、ぜひ無料トライアルにお申し込みください。

お申し込みはこちらから

または、お近くの販売代理店までお問い合わせください。